

はじめに (開催趣旨)

平成 24 年 2 月 23 日

宮城県沖地震対策研究協議会会長
東北大学名誉教授 長谷川 昭



宮城県沖地震対策研究協議会は、高い確率で発生が予想されていた宮城県沖地震に対して、地震防災に関する研究者や実務者が災害軽減に結びつく研究に

根ざした活動を行うことを目的として、2003年12月に設立されました。防災技術・防災教育・地域づくり・災害医療・ボランティアの6つの部会を設置し、年一回「定例宮城県沖地震シンポジウム」で活動状況を報告してまいりました。

昨年3月11日に発生した東日本大震災は、宮城県沖地震の想定震源域から破壊が始まったものの、想定されていた規模をはるかに上回る地震による戦後最悪の災害となり、津波によって沿岸域

で壊滅的な被害が生じたと同時に、長時間の地盤震動により多くの建物や地盤の被害が引き起こされました。現在この災害について様々な調査が行われ、復興に向けた検討が進められておりますが、まずは地震および被害の実態を明らかにし、そこから得られる教訓を共有することが重要と思われます。

そのため、宮城県沖地震対策研究協議会および東北地質調査業協会は、地震・津波・振動・地盤の4つの項目について、これまでで明らかになった東日本大震災の実態と、今後の復興および地震災害低減への課題に関する講演会を開催することといたしました。

皆様におかれましては、上記の趣旨をご理解いただき、多くの方々にご参加いただければ幸いです。